# 南欧、巡礼の道に咲く花

菊地　賢

スペインの朝は、遅い。

八時頃にようやく昇ってきた太陽が、私たちの背中を照らした。丘を登ると、低く立ちこめる霧の向こうにまた次の丘が見えた。大地が、どこまでもゆるやかに起伏していた。

私たちは、巡礼の道を歩いていた。昨日 30km を歩いた疲れが残り、今日も道のりは長い。路傍の灌木に咲く黄色や薄紅色の小さな花が朝日に輝き、私たちを元気づけてくれた。

＊

キリスト教の三大聖地のひとつ、スペイン北西部の都市サンティアゴ・デ・コンポステーラ。フランスからピレネー山脈を越えて聖地サンティアゴに至る巡礼路が、中世から続いている。映画「星の旅人たち」の舞台にもなったこの巡礼路が、いま世界から年間 20 万人超が歩く人気の旅路になっている。

2015 年 9 月、マドリッドから特急で6時間余りのサリアという街から、私たちの旅が始まった。この街を起点にする巡礼者は多い。全長約 800km の巡礼路のうち、最後の 100km あまりを歩く旅だ。

道は牧場や植林地の広がる丘を越え、楢の森に入り、石積みの家が並ぶ小さな村を抜け、ときに大きな街に出た。そんな旅路で幾度と無く目にしてきたのが、この灌木の花であった。それは単なる路傍の花に留まらず、ときに丘の上に広く生い茂って花を咲かせ、巡礼路の風景の一部をなしていた。

私たちは植物学者である。花と見れば近寄って観察する習性がある。黄色い花には明らかにマメ科の特徴があって、その葉は細く尖って棘状であった。薄紅色の花はというと何種類かあるようだったが、いずれもブルーベリーに似た壺状の可愛い花を着けていて、ツツジ科のようだった。

ふと思った。「これは、いわゆる『ヒース』ではないだろうか？」

ヒース（heath）とは、イングランド北部やアイルランドの痩せた土地に広く見られる、ツツジ科植物が優占する矮生の低木林を指す。

帰国後、写真を手がかりに調べてみた。薄紅色の花のひとつはツツジ科

▲ サンティアゴ・デ・コンポステーラ巡礼路の景観は美しい。

▶ 巡礼路の脇に、ヒースの灌木林が広がる。カルーナ・ブルガリスの薄紅色の花やハリエニシダの黄色い花が咲いていた。

の「カルーナ・ブルガリス」といい、ヒース植生の代表とされる植物であった。ほかの薄紅色の花はおそらく「エリカ・キネレア」や「ダボエキア・カンタブリカ」、やはりツツジ科である。マメ科とおぼしき黄色い花は、ハリエニシダの仲間。ヒースは学術的には「カルーナ属、エリカ属、ダボエキア属などのツツジ科植物が優占しハリエニシダを交える灌木林」とされるという。巡礼路の灌木林は、正真正銘のヒースであった。

「ヒースってもっと北のものだと思ってた」と妻が言った。読書家の彼女にとって、ヒースは『嵐が丘』の荒野の情景だという。シャーロック・ホームズの愛読者であった私も『バスカヴィル家の犬』の舞台、ダートムーアの風景を思い出す。私たちには、イギリス文学の先入観があった。実際は、ヒースは欧州の大西洋沿岸地域に広く分布し、北はスカンジナビア半島から南は地中海沿岸のモロッコにまで至るという。イベリア半島では北西部のガリシア地方に多いという。まさにサンティアゴ巡礼路に沿ったこの地域だ。

面白くなって、さらに文献を漁る。

現在見られるヒースの広がりは、実は人の営みがもたらしたものだという。もともと冷涼な気候、貧栄養な土壌に成立するヒース植生は、最終氷期にはイベリア半島に広く分布し、優占的な植生だったらしい。しかし氷期が終わり気候が温暖になると、徐々に森林が拡大してヒースは縮小した。欧州の各地で同じように、ヒースは森林に置き換わっていった。ところが今からおよそ 4,000 年前から、ヒースは再び拡大を始めた。人間が行なった森林伐採や、火入れ、放牧がヒースを繁茂させたと考えられている。こうして欧州で、再びヒースは優占した。

ところがいま、ヒースが衰退の一途を辿っているという。伝統的な土地利用が失われ、野火の抑制、集約的農業への転換、有用樹種の植林などによってヒースは生育場所を失っているのだ。ヒースはさまざまな動植物の生息場所となり、高い生物多様性を保有する生態系である。いま欧州では、火入れなどヒースの保全管理の取り組みがなされている。古来から人の営みが育んできた生物多様性が消えつつある。それはどこか、日本の里山と似ている。

いまは路傍や植林地の脇に押しやられた、巡礼路のヒース。しかし、ときに広く繁茂して丘を鮮やかに彩る広がりも、確かに残っていた。中世の昔、あの丘は一面のヒースに覆われていたのだろうか。薄紅色や黄色の花に鮮やかに彩られた巡礼の道を、人々は旅していったのだろうか。

時が止まったような古びた村の景観、朝靄に浮かぶ教会やサンティアゴの荘厳な大聖堂、そして旅で出会った人々の思い出とともに、私たちはヒースの花の姿を心に刻んだ。

▶ 村の教会が朝靄に浮かぶ。

◀ ヒースの代表種。上から「ダボエキア・カンタブリカ」、「エリカ・キネレア」、「カルーナ・ブルガリス」、そしてハリエニシダの仲間。